

銀象嵌文様などの豪華な出土遺物

出土遺物は玄室床面からガラス玉や金銅製耳環、銀製空玉、須恵器、鉄鍔等があります。金銅製馬具は3セット副葬されていました。古墳時代馬具の最終段階を示す資料で、新羅の影響を強く受けています。円頭大刀柄頭銀象嵌は逆心葉形をモチーフとした華麗な文様が施されました。築造時期は、石室の構造や出土遺物より6世紀末から7世紀にかけてのものとみられます。



保存処理後



×線CTスキャン後の三次元画像

円頭大刀柄頭銀象嵌



山王山古墳位置図

- ◆所在地 福岡県飯塚市西徳前 401-28
- ◆交通案内
バス/西鉄バス明治町入口及び勝盛遊園より徒歩約5分
JR/新飯塚駅より車で約5分
- ◆駐車場がないため、勝盛公園駐車場(飯塚市片島1丁目7)や本町駐車場(飯塚市本町19-38)をご利用ください。
- ◆石室へは個人の所有地を通るため、入ることはできません。
- ◆発掘調査で出土した遺物は飯塚市歴史資料館に展示しています。

問い合わせ先

飯塚市歴史資料館

〒820-0011 飯塚市柏の森 959-1
TEL・FAX 0948-25-2930

福岡県指定史跡

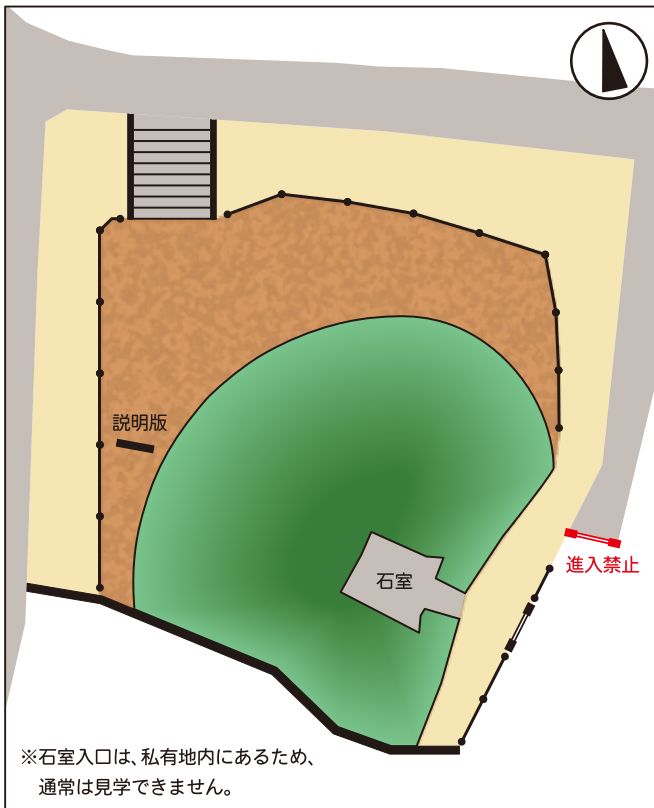
さん のう ざん
山王山古墳

飯塚市教育委員会

山王山古墳とは

山王山古墳は平成21・22・24年(2009・2010・2012)に範囲内容確認のため、飯塚市が発掘調査を実施しました。調査の結果、6世紀末から7世紀にかけての敲打技法により装飾された石室を有する装飾古墳であることが明らかとなりました。

本古墳は当地域の首長墓と考えられ、敲打技法による装飾古墳として遠賀川流域において初めての発見であったので、平成27年(2015)に福岡県指定史跡となりました。



山王山古墳案内図

巨石墳にして装飾古墳

山王山古墳は標高約40mの丘陵上に立地しており、南側には遠賀川の支流である穂波川水系に形成された肥沃な平野が広がっています。

墳丘は径約20mを超える円墳で、内部主体は単室の横穴式石室です。後世に玄室の天井石前面に文字(「萬古洞」)が彫られていることから、古くから開口していたとみられます。玄室の平面形はほぼ正方形に近く、約2.2m×2.4m、高さ2.4mを測ります。床面には人頭大の平石を敷き、奥壁側には仕切り石を立て屍床ししゅうを設けています。



山王山古墳(遠景)



山王山古墳石室入口

奥壁の腰石こうだに敲打技法(たたきくぼめる)による装飾が確認され、文様は円文などが10数箇所確認されています。



山王山古墳(整備後)